

小林愛実(ピアノ) Aimi Kobayashi, Pianist

2021年10月、「第18回ショパン国際ピアノコンクール」第4位入賞。

3歳からピアノを始め7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。2005年(9歳)以降、ニューヨークのカーネギーホールに4度出演、パリ、モスクワ、ポーランド、ブラジル等に招かれ、スピヴェコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、ジャッド指揮ブラジル響などと共演。ポーランドには、「ショパンとヨーロッパ」国際音楽祭ほか、協奏曲のソリストとして度々招かれている。

国内でも多数のオーケストラと共演し、サントリーホールをはじめ各地でもリサイタルを行い、高い評価を得ている。

2010年ショパン生誕200年記念に際して、ポーランド政府より「ショパン・パスポート」を授与された。2015年(20歳)10月、「第17回ショパン国際ピアノコンクール」に出場、ファイナリストとなった。2017年7月には、モスクワ・フィルの日本ツアーでソリストとして迎えられ、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を共演している。2018年8月には、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭に出演した。2020年3月には、チューリヒ・トーンハレ管とリストのピアノ協奏曲第1番を共演して好評を博した。2024年11月、トゥガン・ソヒエフ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管とラフマニノフのパガニーニの主題による狂詩曲を共演。

レコーディングは、2010年(14歳)「デビュー!」でCDメジャーデビュー

し、翌年セカンドアルバム「熱情」をリリース(EMI CLASSICS)。2018年ワーナークラシックスとのインターナショナル契約を発表。同年4月には、7年ぶりとなるCD「ニュー・ステージ〜リスト&ショパンを弾く」をリリース。

2021年8月25日、ワーナークラシックスよりCD「ショパン:前奏曲集他」をリリース。レコード芸術誌で「特選盤」に選ばれる。2024年11月に最新CD「シューベルト:4つの即興曲 作品142、ピアノソナタ第19番 ハ短調、ロンド イ長調(連弾)他」をリリース。

幼少期より多くのメディアから注目を集め、フランスのLCIテレビのドキュメンタリー、日本テレビ「深夜の音楽会」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-BS「みんなのショパン」、NHK-BSプレミアム「クラシック倶楽部」などテレビやラジオ番組にも数多く出演。2015年にはMBS「情熱大陸」にも登場して話題を呼んだ。2021年「第18回ショパン国際ピアノコンクール」入賞後には、NHK「クローズアップ現代+」等様々なメディアに登場。

1995年山口県宇部市生まれ。8歳より二宮裕子氏に師事し、2011年桐朋学園大学付属高校音楽科に全額奨学金特待生として入学。2013年フィラデルフィアのカーティス音楽院に留学。マンチェ・リュウ教授に師事し研鑽を積んだ。

2022年3月、第31回出光音楽賞受賞。

今、世界的な活躍が期待できる日本の若手ピアニストとして注目を集めている。

© Yuki Kumagai

惜別と哀悼の想いを込めて一つ一つの曲を亡き友たちに捧げたラヴェルの名曲と
天上の調べを紡ぎ出すシューベルト最晩年の傑作ソナタ。
ショパン国際ピアノ・コンクール入賞から5年
世界が認めた実力派ピアニストが、今、新たな境地へと向かう。

Aimi Kobayashi
Piano Recital